



木曜掲載

高田城火除け札

長養館 上越市

江戸時代から続く上越市寺町2の老舗料亭「長養館」。高田の人々や中央の名士をもてなしてきた歴史ある料理屋で大切にされてきたのが、「高田城火除け札」だ。文字通り、高田城を火の気から守るために城内の台所に掛かっていたとされる。

高田城は1614年に築城され、徳川家康の六男松平忠輝が初代城主となった。明治維新の後、城が取り壊された際に札は



吉原耕一さん

防火第一の精神の象徴

取り外されたと口伝される。どのように長養館に渡ったのか記録はないが、6代目の吉原耕一社長(58)によると、「大得意だった(大地主の)保阪家の取りなしで譲ってもらったようです」という。

長さ80センチほどの黒い札には「城内安全祈願」「天保九(1838年)五月吉祥日」との文字が読み取れる。当初は調理場に飾られていたとみられるが、その後、訪れた客が見ることのできる応接室や喫煙室に掛けられた。

店舗が1892年に現在の地へ移ってから120年余り。心を和ませる数寄屋造りが特徴の同館で、歴代の主人は防火には細心の注意を払ってきたという。周辺の多くの寺院などを焼いた1915年の寺町大火も難を逃れた。

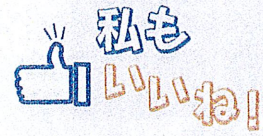
「これまで建物が火災に遭ったことはありません。お札の御利益でしょうか」と吉原さん。防火第一の精神の象徴として、札をこれからも大切に受け継いでいくつもりだ。



かまどの上で黒く

上越市立総合博物館の学芸員、花岡公貴さん(47)

高田城がどのように取り壊されたのかははっきりしないが、ゆかりの品はいくつか市内に点在する。札が高田



城にあったとする記録はないものの、どこの城にも炊事場には「火鎮め」の札があった。黒くすすけているのはかまどの上にあったためだろう。高田城の姿を見ることができない現在では、貴重な史料だ。